

一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方

～自立をふまえて(どの子ども共に生き、共に育つ)～

I 主題設定の理由

近年、東山梨地区の特別支援学級数は増えているが、1学級の在籍児童生徒数は少人数化し、知的、自閉症・情緒、肢体不自由、難聴、弱視と、多様な障害にわたり、なおかつその程度も重くなっている。そのため一つひとつの学級が抱える悩みは深くかつ多様化しているのが現状である。そして、在籍・通級及び特別に支援を必要としている発達障害を持つ子どもたち一人ひとりの障害の状況や発達段階、その特性に合わせた支援は、どの学級についても共通した重要な研究課題である。

そこで本年度は、授業実践・学習会・情報交換などを通して、児童生徒の理解と支援方法などを模索し、児童生徒一人ひとりの実態に合わせた支援内容、支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 研究の具体的な内容と方法

- (1) 講師を招いて学習会を行ったり、外部の研修会に積極的に参加したりして、それぞれの学習内容について理解を深め、実際の児童生徒支援に生かす。
- (2) 小部会ごと児童生徒の実態を考えた教材研究などを行い、個に応じた授業作りをする。また、小部会ごと指導主事や研修主事を招いて授業実践を行う。
- (3) 小部会ごと情報交換、実践発表をおこない、障害の理解や対応についての学習を深め、全体会で各小部会の実践について情報交換し、共通理解を図る。

2 学習会

指導主事 河西慶仁先生（山梨県教育庁 新しい学校づくり推進室 特別支援教育担当）をお招きし、「発達障害がある児童一人ひとりの実態に合った指導法のポイント」のテーマで講義をしていただき、学習を深めた。

3 授業研究

- (1) 山梨市・甲州知的障害小部会授業研究 国語科「こえに出して読もう」
授業者：牧丘第一小学校 大沢 国雄先生
指導者：かえで支援学校 伊波 美恵先生
- (2) 自閉情緒・通常学級小部会授業研究 国語科「ことばであそぼう」
授業者：岩手小学校 掛本 めぐみ先生
指導者：県指導主事 岡 輝彦先生

4 小部会研究

- (1) 山梨市知的障害小部会

- (2) 甲州市知的障害小部会
- (3) 自閉症・情緒障害小部会
- (4) 通常学級における特別支援教育小部会

III 成果と課題

1 成果

- ・4つの小部会に別れて、部員の先生方の実践を見せていただいたり、情報を交換したりする中で様々な児童の実態に応じた指導のあり方を学ぶことができた。
- ・特別支援は本当にケースバイケースであり、多くの事例を参考にすることが必要なのでよかった。悩みを話したり、実践に役立つ情報も得られたりととてもよかった。意見交換もしやすく全員参加という雰囲気だった。他の先生方も、悩みながら毎日を一生懸命に向き合っておられるんだなと知れて、涙が出るほど安心した。
- ・授業をさせていただき、先生方から内容、手立て、考え方などについて、助言をいただいたことで大変勉強になった。
- ・学習会では河西先生より通常学級の中の支援が必要な子への理解と具体的な対応の仕方についてお話をいただき大変参考になった。小部会では講師の先生を交えての情報交換・学習会ができ、今までの実践を反省し、次への実践に生かすことができた。情緒部会では講師を2度呼びし助言を受けることができた。
- ・今年度、小部会の体制が変わったが大変よかった。通常学級の中にいる支援が必要な子どもを対象にした部会が立ち上がったことはとてもよかった。通常学級の授業を提供してもらったので、支援の仕方を考えるよい機会となった。どの学校にも似たような課題を持つ子がいるのでいろいろな話が聞けて参考になった。通常学級の担任が例年より部会に多く入ったことで支援の視点が広がりよかった。

2 課題

- ・前半は計画と授業案の検討であったが、授業者の先生が、考えがまだまとまらない中で、8月までに3回の検討回数は多いのではないかと。授業案検討は2回くらいにして、1回は学習会や小部会の活動にしてもよい。6月に2回部会があるのは負担。研究授業に向け理論研究のため講師の先生が呼べるのならよいが、授業者が決まり内容がある程度わかってからだ「6月に講師」は難しい。どんな内容でも対応可能な講師を前もって依頼しておくのも方法である。
- ・他の小部会（特に知的）との情報交換もできたらよかった。東山梨地区の通級指導教室担当者同士の情報交換をする機会があると連携する上でさらによい。
- ・助言者がいないと提案するだけで終わってしまうこともあるので小部会でも年に1、2回程度は助言者に来てほしい。一人ひとりの児童にどのような具体的な指導を行うことが有効なのかスキルを学習する機会があるとよかった。情報交流（実践発表）は1つ1つ事例を持ち出して、その子にどのような支援の仕方がいいか具体的な方法を皆で考えるような機会もあったらいいと思う。児童の実態→実践→変容の過程を長く見取る実践が出し合いたい。

(部長 雨宮 正倫)